



園だより

平成 30 年 1 月 9 日

佛教大学附属幼稚園

新年あけまして おめでとうございます。

「王さまのように歩いてみよう」

園長 藤堂俊英

たいていの農耕民族には収穫が終わって次の農作業を始めるまでの間に、人も畑も一休みして、感謝や祈りの時を過ごす正月という儀礼があります。旧年も保護者の皆さんと一緒に、この子がこんなことを話せるようになったんだ、こんなことが出来るようになったんだ、そんなかがやく成長の場に立ち会い、共に喜び合えたことを感謝し、今年もまたそのような喜びを共にする日が多いことを願っています。

ところで一休みといえは、とんちの一休さんのことはテレビのアニメでも放映されたので、子どもたちも知っています。私の幼稚園時代にも年に一度の生活発表会があって、私が一休さんの主役をやらせてもらいました。もう 65 年も前の話です。小僧姿の演技が好評だったのか、そのあと町の老人ホームで再演したのを覚えています。以前それを持ち出し大胆にも、大女優森光子さんに私にも助演の機会をと提案したことがありました。もちろん実現しませんでした。セリフを覚える時には、書くと覚えやすいのですよと、コツを教えてくださいました。一休さんをめぐる逸話は『一休小咄』などに伝えられています。例えば、絵に描かれた虎を捕まえるように言われ、まずは目の前まで追い出してほしいとやり返した話、「はしを渡ってはいけません」という通行禁止の高札を見て、はし（端）を渡らずに真ん中を歩いて渡った話などはよく知られています。次に石谷陽子（いしがいようこ）さんの「王様のように」という詩を紹介します。

王様のように歩いてみよう 道のまん中を胸を張って
頭を高く上げて 視線はまっすぐ前を見つめて
王様のように自分の国を見渡そう 右へ十秒 左へ十五秒
そしてゆっくり微笑んでみよう
荒んだ悪事を働く者には 「悪さは止めよ」と言ってみよう そして教えてあげよう
王様ならよく知っている どんなに気分がむっしょくしゃでも
人の心を踏みにじったり 冷たい仕打ちに悲しむ人を あざけり笑っているよりも
「ありがとう」「うれしいなあ」と言ってもらえる事を
次から次へと考え出す方が 何倍も楽しく 心も晴れて 夜も幸せに眠れることを
さあ みんなで 王様のように歩いてみよう

幼稚園で記念撮影をする折、先生がたは子どもたちに、「王様のように、お姫様のように、胸を張って！足をそろえて！まっすぐ前を見て！」と言われます。「王道を歩む」という言葉があります。子どもたちには一日一日が楽しくなれることを、心も晴れることを、そして夜も幸せに眠れることを、柔軟なところで考え工夫する、そういうロイヤル・ロードの真ん中を歩む人に育ってほしいなあ願っています。

